

# 学校が変わります！ 「芯の通った学校組織」へ

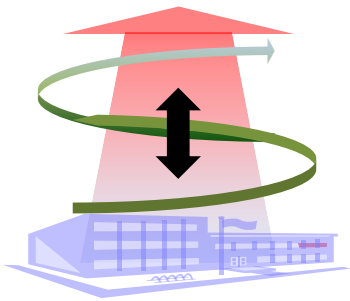
PTAや校長先生との意見交換などを受けて、県教育委員会では全ての学校が「芯の通った学校組織」となることが必要だと考え、取組を進めています。

そこで、何がどう変わるのか、Q&A形式でわかりやすく説明します。(詳細は、県教委HP「芯の通った学校組織」でご覧になれます)

## Q1

「芯の通った学校組織」とは、  
どういうものですか？

- 「芯の通った学校組織」とは、次の二つが行われている学校を指します。
  - ① より良い教育を目指し、目標や取組をしっかりと決めて組織で取り組んでいる学校  
(目標達成に向けた組織的取組)
  - ② 校長先生のリーダーシップの下、主任の先生達がミドルリーダーの役割をしっかりと果たしている学校  
(基盤となる学校運営体制)



## Q2

「芯の通った学校組織」が、  
なぜ必要なのですか？

- 大分県の子どもたちの学力・体力は向上しつつあるものの、まだ全国平均に達していません。
- 学校が「芯の通った学校組織」に変わることで、
  - ① 具体的な目標や取組を決め、常により良い学校づくりを進めることができます
  - ② また、先生個々に任せるのではなく、学校全体で授業力を高めたり、いじめの対応などを行うことができます
  - ③ そして、学校全体で目的意識を一致させて取り組むことで、学校に勢いが生まれます。
- これらの結果、学校は、これまで以上に、子どもたちに達成感を持たせながら、その力をどんどん伸ばしていけると考えています。



## Q3

学校は、具体的にはどのように  
変わりますか？

- 各学校は、「**重点目標**(3つ程度)」、「**達成指標**」、具体的な「**取組内容**」を、年度はじめに決めて、毎学期に振り返りながら、より良い教育を目指すこととなります。

例

【重点目標(の一つ)】

挨拶ができる子どもの育成

【達成指標】

年度末に、「子どもがよく挨拶をするようになった」と回答した保護者の割合が80%以上

【取組内容(取組+取組指標)】

- ① 毎朝5人以上の先生が、校門前で挨拶運動をする。
- ② 毎週HRの時間に、全ての学級でよく挨拶している子どもをほめる。

- 校長が校長、教頭、主要な主任の先生で構成する「**運営委員会**」を活用し、素早い決定を行う学校になります。
- その他、「学校全体で読書活動に取り組む」など、あらゆる面で、目標達成に向けた組織的な取組が行われるようになります。

## Q4

取組の予定は、どうなっていますか？

以下の3つのフェーズで取組を進めています。

平成24年度

「芯の通った学校組織」に向けた取組を皆さんに知ってもらいます。

また、市町村教育委員会にアクションプランを作ってもらい連携を深めます。

平成25年度

全市町村教委・学校で、「芯の通った学校組織」の実践を始めます。また、実践の成果を研修などで共有します。

- 新しい学校評価の実施
- 学校全体による学力・体力向上の実践
- 主任の先生を集めた研修会の開催

平成26年度

「芯の通った学校組織」が定着するよう取組をさらに深化させます。

# ＜学校改革＞

## 「目標達成に向けて組織的に取り組む 『芯の通った学校組織』」の構築

学力・体力向上、豊かな心

【持続的・発展的な取組】

具体的な目標

校長

管理職

Action

Check

運営委員会

主任等

D。

分掌会議

Plan

教職員（担任・係）

教育目標・  
学校評価等

具体的で検証可能な重点目標、重点取組、指標を設定し、それらに基づくPDCAにより、学校改善を継続的・持続的に進める学校組織

体力向上

校長等管理職の下、体育主任を中心に、児童生徒の体力分析や、「一校一実践」の取組など、学校全体による体力向上に取り組む学校組織

学力向上

校長等管理職の下、教務主任を中心に、カリキュラムマネジメントによる検証・改善を行い、学校全体で学力向上の取組を行う学校組織

いじめ対応

校長等管理職の下、生徒指導主事等を中心に、情報共有やいじめ対応のための組織が機能し、学校全体で統一的な対応を行う学校組織

「目標達成に向けた組織的取組」

「目標達成に向けた組織的取組」

【基盤となる学校運営体制】

校長のリーダーシップの下、それぞれの分野の責任者としてミドルリーダーたる主任等が効果的に機能し、運営委員会での協議等を通じて機動的で改善志向の意思決定を行う学校組織